聖学院ビジョンブック
2023-2027について

学校法人聖学院は、2018年より5年間の第1期聖学院ビジョンを実行し、変わり続ける時代に求められる教育と社会貢献を見つめ直してきました。2023年に迎えた第2期では、聖学院が創立時より120年にわたって大切にしてきた「神を仰ぎ 人に仕う」の精神のもとで、聖学院のキリスト教教育の持つ価値を高め、地域から世界へ貢献できる人材育成をさらに拡げていくための重点実施項目とアクションプランを示しています。表紙のデザインは、聖学院大学のチャペルの天井をモチーフとしており、地域社会を起点として光を発し続けるキリスト教教育の精神と、聖学院の変わらない信念を表現しています。

聖学院大学 チャペル

学校法人 聖学院

発行日：2023年6月16日
発　行：学校法人 聖学院
編　集：理事長室会議

聖学院ビジョンブック 2023-2027

SEIG VISION BOOK

学校法人 聖学院

Our Vision ― 聖学院が目指す未来 ―

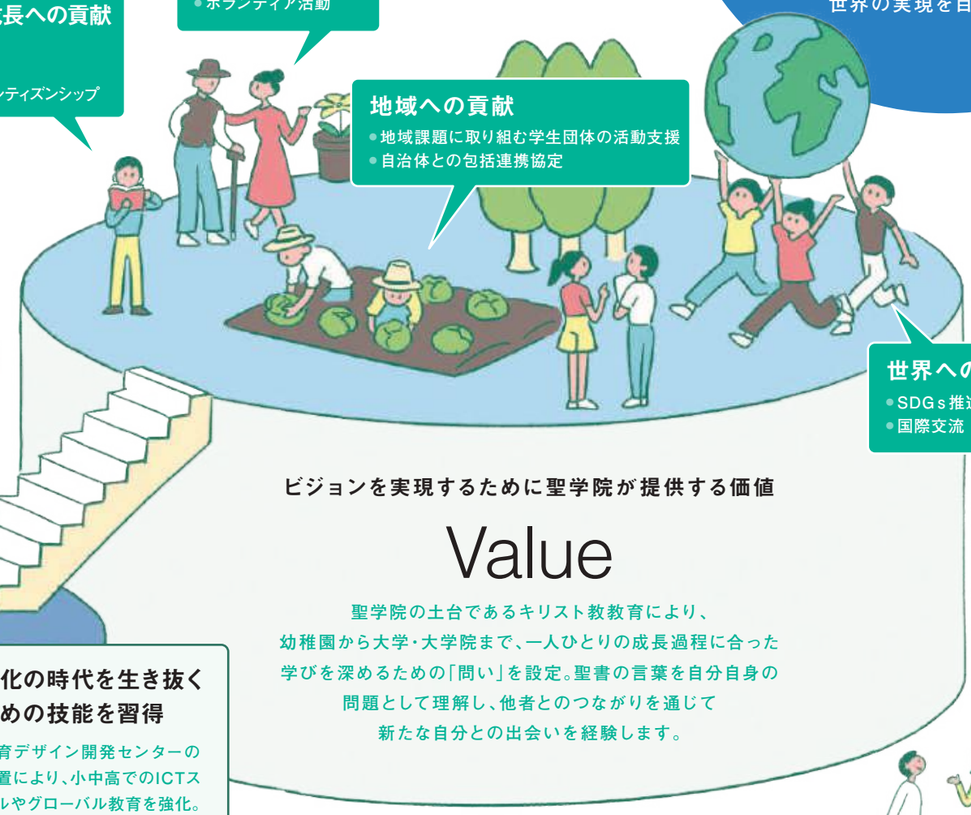
創立から120年。
次世代社会を担う、人づくりへ。

1903年、神学校から始まった聖学院。その教育の土台は、120年を経てこれからも変わることのない、一人ひとりの人格を愛する心です。目まぐるしく変化する次世代社会で「誰一人取り残さない」世界の実現を目指すとき、何より必要なのは「人に仕える」精神。私たちが脈々と受け継いできた他者貢献の精神は、次世代社会を支える人づくりに通じています。

私たちが目指す未来

SEIG VISION 2023-2027 キーメッセージ

将来の日本および国際社会に
貢献する人間を育成
「誰一人取り残さない」
世界の実現を目指して



自身の成長への貢献
- 英語教育
- 探究力
- デジタル・シティズンシップ

他者への貢献
- キリスト教教育
- ボランティア活動

地域への貢献
- 地域課題に取り組む学生団体の活動支援
- 自治体との包括連携協定

世界への貢献
- SDGs推進
- 国際交流

建学の精神を体現した人間性の育成

「神を仰ぎ 人に仕う」このキリスト教精神に根差した教育をモットーとし、より良い社会づくりに貢献する心と、自分を愛するように隣人を愛する温かな人間性を育みます。

社会に還元し貢献できる知識の習得

キリスト教一貫教育の中で、人に仕える視座を身につけながらアカデミックな知識を蓄積。得た知識を地域社会に還元できるリーダーを育成します。

建学の精神
（全ての活動における価値基準となる精神）

「神を仰ぎ 人に仕う」

真理を探求すること、
神と人間を知ること、社会に貢献すること

ビジョンを実現するための
第2期戦略

Strategy

学びの客観的評価を設計。
そのデータを教育の改善や質向上に
生かすことで、次世代社会に
求められる私学であり続けるための
アップデートを図っていきます。

変化の時代を生き抜くための技能を習得

教育デザイン開発センターの設置により、小中高でのICTスキルやグローバル教育を強化。大学では教育開発センターの設置により、ICTをはじめ次世代社会に対応した専門性の高い学びを実現するため、カリキュラムの改善や充実に力を入れています。

ビジョンを実現するために提供する価値

Value

聖学院の土台であるキリスト教教育により、
幼稚園から大学・大学院まで、一人ひとりの成長過程に合った
学びを深めるための「問い」を設定。聖書の言葉を自分自身の
問題として理解し、他者とのつながりを通じて
新たな自分との出会いを経験します。

ビジョンを実現するために
果たすべき聖学院の使命

Mission

幼稚園から大学・大学院までを擁する教育機関として、
将来の日本および国際社会に貢献する人間を
育成することで、社会的責任を果たします。

SEIG VISION

第2期 2023-2027

1883 宣教のため来日

チャールズ・E・ガルスト

ジョージ・T・スミス

キリスト教プロテスタントの伝道を目指して、アメリカのディサイプルス派から、宣教師 ジョージ・T・スミス夫妻、チャールズ・E・ガルスト夫妻が来日。

聖学院120年の歩み

1903
1893年に宣教師として来日したハーヴェイ・H・ガイ博士が、現在の文京区本郷の地に聖学院の前身となる聖学院神学校を設立。翌1904年には聖学院英語夜学校を設立。

1905
キリスト教伝道のために来日していたバーサ・F・クローソンの尽力により、東京築地に神学校として女子聖学院を設立。クローソンが初代院長に就任。

1906
聖学院中学校設立。1892年、アメリカ留学から帰国後にガイ博士と出会った石川角次郎が初代校長に就任。

1912
文部省の認可を受けて、女子聖学院の構内に中里幼稚園（現：聖学院幼稚園）を設立し、A.W.ブレースが園長に就任。

1960
女子聖学院小学部（現：聖学院小学校）を設立し、小田信人が校長に就任。

1967
女子聖学院短期大学（英文科）設立。小田信人が初代学長に就任。

1978
女子聖学院短期大学付属幼稚園（現・聖学院みどり幼稚園）を設立し、W.G.クレーラが園長に就任。

1988
聖学院大学（政治経済学部政治経済学科）設立（金井信一郎学長）、1992年人文学部、2004年人間福祉学部（現：心理福祉学部）設立。1996年聖学院大学大学院政治政策学研究科（修士課程）を設立（安倍北夫大学院長）。

2023
聖学院創立120周年。

Our Value　— 聖学院の価値創造プロセス —

貢献の精神が、持続可能な世界をつくる。

個人主義で正義を見失いがちな時代。聖学院の使命は「全ての人の良き隣人」となれる
他者貢献の精神を持ち、行動できる人材の育成です。それこそが神学校時代から大切にしてきた
本学院の価値であり、次世代に受け継ぐべき財産と言えます。

私たちが目指す未来

SEIG VISION 2023-2027 キーメッセージ

将来の日本および国際社会に貢献する人間を育成
「誰一人取り残さない」世界の実現を目指して

社会に与える影響

- 現代における複雑化した社会課題の解決
- 人材育成を通じたSDGｓ開発目標達成への貢献
- 個人主義的社会への新しい心のあり方と行動規範の提示

自身の成長への貢献
- 英語教育
- 探究力
- デジタル・シティズンシップ

他者への貢献
- キリスト教教育
- ボランティア活動

地域への貢献
- 地域課題に取り組む学生団体の活動支援
- 自治体との包括連携協定

世界への貢献
- SDGｓ推進
- 国際交流

ビジョンを実現するために聖学院が提供する価値 Value

- 真理を探求する学習者の育成
- 学び得た知の実践
- 人間理解の深化

ビジョン達成のためのキリスト教教育

- 他者のために生きる個を育てる
- 知性と行動力を育てる
- 固有な賜物の発見を助け人格完成へ導く

経営資源

歴史
ディサイプルス派日本宣教から140年、聖学院神学校設立から120年、キリスト教教育普及の原点

教育
幼稚園から大学・大学院までである一貫教育、歴史あるキリスト教教育の実践、世界に貢献できるグローバルイノベーターの育成、社会課題を解決するためのプロジェクトリーダーを育成

人材
園児・児童・生徒・学生・教職員・卒業生・在校生保護者・卒業生保護者

場
駒込キャンパス、さいたま上尾キャンパス、チャペル、講堂、図書館、地域連携、産学連携、ボランティア活動推進、教育カリキュラム開発、生徒・学生プロジェクト活動支援

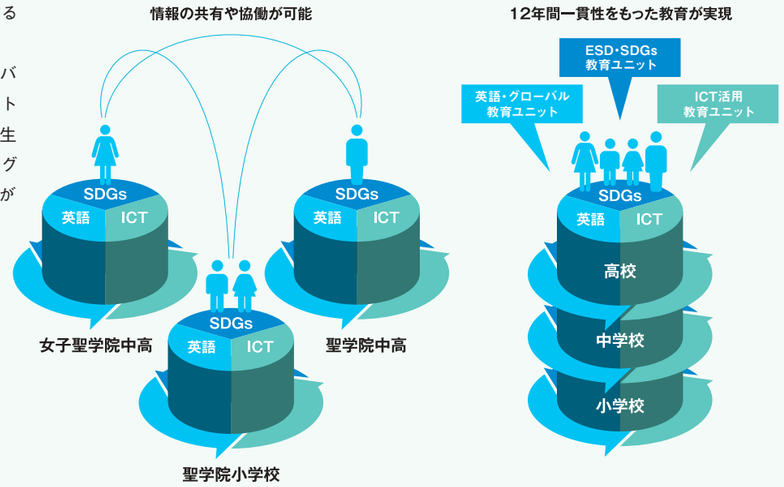
広報
法人各校ホームページ、SNS、聖学院ニュースレター、ASFニュース、各校学校案内、同窓会報、ビジョンレポート（年次報告書）、プレスリリース、各種メディアとのリレーションシップ

持続可能な世界をつくるための価値創造のしくみ

他者の心に寄り添い、学んだ知識をより良い社会づくりに活かせる人材を育てるため、聖学院では2021年度駒込キャンパスに「教育デザイン開発センター」、2022年度聖学院大学に「サステイナビリティ推進センター」「教育開発センター」を設置。学院をあげて、教育価値をアップデートするプロジェクトに取り組んでいます。今後は幼稚園から大学・大学院までの総合教育機関として、学院内だけでなく、地域や企業等とより効果的な教育連携を図っていくことを計画しています。

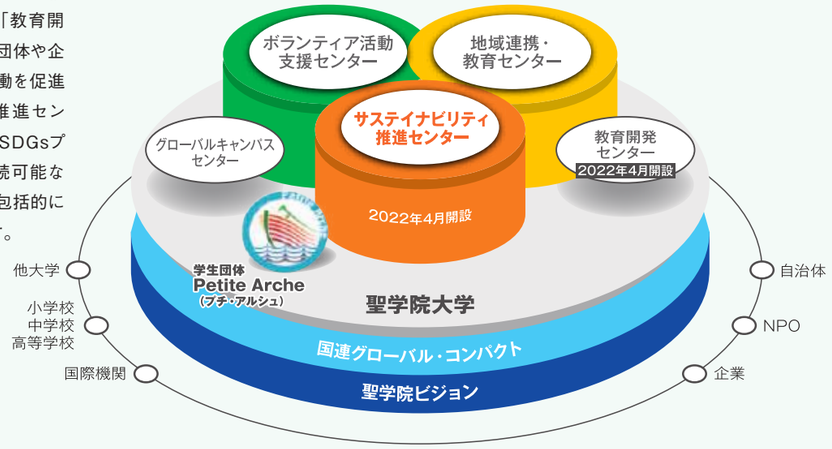
駒込キャンパス「教育デザイン開発センター」

駒込3校（聖学院小学校、女子聖学院中学校・高等学校、聖学院中学校・高等学校）の教育活動を共有化することを目的に2021年度設置。「ESD・SDGs教育」「英語・グローバル教育」「ICT活用教育」の3ユニットに分かれ、各校教職員が参加して、生徒プロジェクトの推進や教育プログラムの開発、教員研修などの活動が進められています。



聖学院大学SDGsプラットフォーム

2022年度、大学のカリキュラムや教育プログラムの開発を行う「教育開発センター」、大学内外の諸団体や企業・自治体などとの連携・協働を促進する「サステイナビリティ推進センター」を設置。「聖学院大学SDGsプラットフォーム」として、持続可能な社会の形成を目指す活動を包括的に推進する体制を整えています。



Our Contribution　— 聖学院の人づくり —

他者に寄り添い、希望ある社会をつくるの　は「人」。

聖学院では、学院全体を通じて社会課題を解決するためのプロジェクトリーダーの育成を推進しています。在学時に様々な社会貢献と出会うことで、人のために自分は何ができるのかを考え、進んで取り組む行動力を養う。これこそが、聖学院の教育の原点である「神を仰ぎ　人に仕う」キリスト教教育の精神です。

聖学院という“大　樹”に育まれる一貫校ならで　はの自己形成

幼稚園から大学・大学院まで擁する聖学院では、下級生は常に上級生の姿を見ながら、上級生は先輩としての姿を見せなければという意識を持って、成長していきます。この大きな年齢集団の中で、自然と他者貢献の精神が育まれ自己形成していけることは本学院で学ぶ園児・児童・生徒・学生にとってかけがえのない財産です。

聖学院大学

豊かな人間力（共感力・対話力・実践力）を養成し、市民社会の各分野で、専門性とコミュニケーション力をもって貢献できる人間を育成する

聖学院大学大学院

高度な専門的知識をもち世界と社会に貢献しうる、豊かな精神性のある人間を育成する

聖学院中学校・高等学校

Only One 教育の実践
豊かな人格を育てる

女子聖学院中学校・高等学校

自らの賜物を用いて他者と共に世界のために貢献できる女性を育成する
（自立できる強さ、共生する喜び、新しい世界を創造する意欲、豊かな感性と実行力・実力の涵養）

聖学院　小学校

神から与えられた賜物と身につけた知識、技能を自分のためだけでなく、他者のためにも用いる人を育てる

聖学院幼稚園

日々の感謝と奉仕からうまれる豊かな心の成長を育む

聖学院みどり幼稚園

神さまの愛の中で、人と関わりながら、生きる力を育む

学校法人聖学　院 建学の精神

「神を仰ぎ　人に仕う」

Love God and　Serve His People

不就学ゼロになる日本に

小学校教員、NGO職員などを経て、岐阜県可児市の職員へ。同市での全国初の外国籍児の不就学ゼロ実現を経て、東京外国語大学多言語多文化共生センター長、文部科学省外国人児童生徒等教育アドバイザーとして活躍しています。

聖学院小学校・女子聖学院中学校・高等学校卒業
小島 祥美

起業から芽生えた社会貢献への思い

高校時代にみつばちプロジェクトに参加し、その後合同会社And18'sの社長に就任。貧困と環境、２つの社会課題へのアプローチを目的としたタイコーヒー専門会社「明日、福」の起業を通じて社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

聖学院中学校・高等学校 **篠原 飛陽**

釜石から学んだ「命の大切さ」を子どもたちに

東日本大震災の復興を目指す大学のボランティアSAVEの代表を務め、子どもたちに防災の大切さを分かりやすく伝えるイベントを開催。自らの経験に基づいた防災活動を企画しています。

聖学院大学卒業 **玉之内 菖**

SDGsやWFPのことを多くの人に伝えたい

「学食寄付メニュープロジェクト」の学生チーム、Petite Arche（プチ・アルシュ）の設立メンバー。これをきっかけに様々なSDGsへの取り組みを実践。先生やWFPの方のサポート、地元企業との連携を通じて、自分にできる社会貢献の幅を広げています。

聖学院高等学校・聖学院大学卒業 **新井 乾斗**

デザインを通じて自分にできる社会貢献を

中3の時の担任で美術科の先生との出会いがきっかけでグラフィックデザイナーに。経済産業省のレジ袋削減ポスターデザインなどを通じて社会貢献の一端を担っています。

聖学院小学校・女子聖学院中学校卒業
川原 康子

子どもたちに生の音楽に触れる機会を

聖学院みどり幼稚園の先生とはプロのヴァイオリニストになった今も交流。卒園したみどり幼稚園での演奏会を通して、コロナ禍で生の音楽と触れる機会が減った子どもたちに音楽の楽しさを伝え、子どもたちの成長に貢献しています。

聖学院みどり幼稚園・聖学院小学校卒業
伊藤 万桜

ボランティア経験を生かした母校での防災教室

大学時代は勉強の傍ら震災の被災地支援ボランティアに参加。その経験を生かして母校である聖学院小学校で防災教室を開催。防災教育に貢献しています。

聖学院小学校・聖学院中学校・高等学校・聖学院大学卒業
山下 佑太

第2期アクションプランで、次のステップへ。

第2期聖学院ビジョン達成に向けた今後の戦略と決意

第2期聖学院ビジョンの達成目標は、聖学院が守り続けてきた建学の精神と一致します。つまり「神を仰ぎ 人に仕う」という教育理念を体現した人間を育てるということです。人に仕えるためには知識や技能を持っていなければいけませんし、時代の変化が求めるスキルを各人がしっかりと習得していく必要があります。自分の持っている良さを自己実現や自分の利益のためだけでなく、他者や社会のために喜んで用いていくリーダーを育て世に送り出していく、これが聖学院の教育が目指すゴールです。

本学院で学ぶキリスト教の教えは、人間の尊厳や人権の問題、他者と共に生きる社会の実現等、現代社会の課題や自分の生き方を探求する手がかりとなります。私自身、キリスト教主義の学校に学び、そこで初めて聖書に触れ授業や学校礼拝を通じ、時に反発しながらもキリスト教の発する問いを通じて自分の生き方を考えるようになりました。聖書の問いかけが、そこに学ぶ者の自己形成に働きかけていく、ここに聖学院の教育意義があると考えます。

次に、第2期アクションプランの新たな取り組みである評価システムについてご紹介します。今回のアクションプランでは、5つの重点実施項目を設定し、この指標に基づいて法人および各学校が2023～2027年度の5年間で何を達成するのかを明確にしました。また、掲げた実施項目について単年度ごとに定性的・定量的視点から評価を行い、改善につなげるという検証システムを構築いたしました。

今回の5つの重点実施項目で最も重視しているのは教育研究の質向上です。それぞれの学校が、建学の精神のもとで特色ある教育を展開していくことが何よりも重要であることはいうまでもありません。聖学院の教育といえば、キリスト教を通じた人格教育、英語教育、ICT教育、グローバル教育、サステイナブルな社会実現に向けた課題解決型教育やボランティア活動が高い評価を得てまいりました。これらに加え、地域社会への貢献を視野に入れた学校づくりを一層進めてまいります。

学校法人聖学院の下にある学校は、東京・駒込の地で120年の歴史を形づくり、埼玉県の上尾・さいたまの地でも半世紀以上の歴史を紡いでまいりました。私どもの学校群が有している知的、文化的、人的な資源を地域貢献のためにひらき、同時に地域の支援も得ながら教育の質を向上させ、地域にとって聖学院の各学校がなくてはならない存在となるよう取り組んでまいります。

最後に、良い教育研究を行うためには、財政基盤の安定が不可欠ですが、各校が質の高い教育を実現し、その取り組みについて評価も含めた情報公開を行い、社会の信頼を得て入学者の獲得につなげてまいります。そのためにも、駒込の教育デザイン開発センターと大学の教育開発センターの機能を充実させ、教育改革や教育・経営戦略に結びつけていきたいと考えています。

少子高齢社会の進展や将来の展望を描くことが難しい時代といわれる中で、私どもの学校法人にも多くの課題がありますが、第2期アクションプランを通じて、2023年度～2027年度も前進の5年にしていきたいと考えています。

学校法人聖学院 理事長
小池 茂子

1987年3月	青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了【文学修士】
1993年3月	青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程単位取得済退学
2006年4月	聖学院大学基礎総合教育部講師
2008年4月	人間福祉学部准教授
2014年4月	同学部教授
2018年4月	人文学部教授（現在に至る）
2018-2019年度	学長補佐（キャリア担当）
2020年度	副学長（キャリア・教育改善担当）、人文学部長代行【秋学期】
2021年度	副学長（キャリア・教育改善担当/2021年度より学校法人聖学院理事・評議員）
2022年度	副学長（学生支援・教職担当）、人文学部長兼大学院文化総合学研究科長
2023年4月	聖学院大学学長、学校法人聖学院理事長就任

ビジョン達成のための5つの重点実施項目

各校アクションプラン 2023－2027

聖学院が目指す5つの重点実施項目に基づいた各校の第2期アクションプランがいよいよスタート。
大学・大学院から幼稚園まで、それぞれの新たな一歩とビジョン達成への思いをご紹介します。

学校法人聖学院

**学校法人聖学院の教育研究活動
および教職員のモチベーション向上に
寄与するため、聖学院に相応しい
グランドデザインを描き、そのデザインに
基づいた学院規模に応じた
財政基盤の確立を強力に推進する**

ACTION PLAN

教育研究質向上

建学の精神「神を仰ぎ 人に仕う」に基づき、各校・各園がその特色を生かした教育カリキュラムを作成し、国際社会に貢献する個性豊かな人材を輩出する。また、幼稚園から大学・大学院を設置する強みを生かした一貫教育を推進する。

施設設備整備

学院創立120周年を迎え、遊休地および既存施設の活用方法について費用対効果を再評価し、社会的人口動態も視野に入れながら聖学院の未来を見据えた発展的なキャンパス開発を推進していく。安心・安全に教育活動を実践するために教育環境など、必要な設備の種類・性能・品質を標準化する。

財政戦略

安定した財政基盤の構築を目指すため、社会的人口動態を見据えた適正規模における学生・生徒などの人数を確立し、組織的に進めている寄付金や補助金を含めた外部・競争的資金の獲得、関連事業会社の再構築など強力に推進していく。また、経費については常に費用対効果を念頭に置き、学院規模に応じた教職員数の定員管理を実行する。

人材・運営体制

教職員の自己革新・研鑽を支援するとともに学院に必要な人材を育成する。また、より良い職場環境の構築、危機管理体制の強化を含む外部環境の変化に対応できる強い組織を確立する。

広報戦略・情報公開

学院ホームページや広報誌、SNSなどを通じて在校生や卒業生の活躍を学院内外に発信することによって、「聖学院」ブランドの認知度を高め、ステークホルダーとのコミュニケーションを促進し、聖学院教育に対する信頼性向上を図る。学院として公開すべき情報について、受信者のニーズに即した形で公開することで、社会的信頼の獲得を目指す。

聖学院大学

**建学の精神に基づき、豊かな人間力（共感力・対話力・実践力）を
養成し、市民社会の各分野で、専門性とコミュニケーション力を
もって貢献できる人間を育成する**

1. 教学システム改革の一環として「学修成果の可視化」を推進
全開講科目と各学科ディプロマポリシーの関係をシラバス上で紐づけ、「学修ポートフォリオ」の導入を通じて、学生自身が「何を学び、いかに成長できたのか」を把握できるよう、学修プロセスと成果の可視化を実現します。

2. ボランティア活動支援センター、サステイナビリティ推進センターの活動を通じた課題解決力、実践力の養成
授業の他にも、学内にあるボランティア活動支援センター、サステイナビリティ推進センターなどの教育プログラムを通じて、現代社会が直面する課題や地域課題解決に向けた実践力や他者と協働する力を養います。

**3. 教職一体となった厚生補導体制（学生支援体制）の構築
―学生エンカレッジセンター窓口「フィリア」の開設―**
2023年4月、学食前に学生たちの主体的な学びや学生生活を応援する学生総合相談窓口を開設しました。窓口には専門資格を持つスタッフが常駐し、学生とのコミュニケーションを通して彼らの可能性を引き出し、学生を適切な支援部署につなげます。また、同窓口には学生スタッフも配置し、学生相互の交わりを通じて学生自身の成長を促すことも目指しています。これらを通じて「一人を愛し、一人を育む」教育を一層進めてまいります。

4. 教育開発センターとIR室の連携による、教育成果の検証を踏まえた教育改善の推進
本学に学ぶ学生の学力や大学生活に関する満足度などを定性的かつ定量的に分析し、この分析結果を踏まえて、学内の学部、学科、事務部門が自分たちの取り組みを評価し、次年度へ向けた教育改善を進めます。

5. 社会的評価を高める大学広報・入試広報、情報公開を一層強化し、目標定員の達成を目指す
本学の教育や、入試に関する方針を受験生や社会に明確に伝えることで、目標定員の達成を目指します。

聖学院大学 学長 **小池 茂子**

聖学院大学大学院

**高度な専門的知識をもち
世界と社会に貢献しうる、
豊かな精神性のある
人間を育成する**

大学院は、政治政策学研究科、文化総合学研究科、心理福祉学研究科を擁し、修士課程では、高度な知識を求める職業人や、生涯学習の時代に高度な教養人を目指す人、公的資格の取得を目指す人など多様な目的を有する人を受け入れています。博士課程では高度な研究能力と専門知識を持つ人間を育成することが目指されていますが、各人の研究・学修成果の可視化に加え、研究公正、研究倫理の観点からも研究推進体制をより一層整備していきます。大学院に対して多様なニーズが寄せられる中で、各研究科で入学者選抜の方針と実態との整合性を確認し、適正な入学定員・収容定員（社会人の受け入れも含め）について検討し、大学院の広報および入試情報を適切な形で発信し入学定員の充足を目指します。同時に、従来の懸案である、大学院研究科の教員組織の基本方針策定についても取り組んでいきます。

聖学院中学校・高等学校

Only One 教育の実践
豊かな人格を育てる

「Only One」聖学院が大切にしている言葉です。初代校長・石川角次郎は、「聖学院」の名称の由来は「聖学」の「院」だと語りました。聖学とは聖人に学ぶのみならず聖人になることだと更に続きます。「聖人」これの再表現が「Only One」です。「聖人」本当の自分を知っているものです。人は何かに影響を受けています。その結果、依存、支配の中で自分を形成し、いつしか自分以外のものが沢山貼り付いたものを自分だと思い込みます。自分に貼り付いているものに気が付きそれを剥がしていく。本当の自分。自分だからできる仕事、使命を見出していく。建学以来、聖学院が培ってきた伝統です。「探究」「STEAM」「グローバル」「ICTの活用」聖学院が重んじているものは建学の精神を実現するためです。体育館設備の充実は直近の課題です。身体の鍛錬は心の成長と不可欠です。「この身体」「この心」を持った私に与えられた使命。私の使命と向き合う。聖学院は「生涯の課題」の入口に案内をしています。

聖学院中学校・高等学校 校長
伊藤 大輔

聖学院小学校

神から与えられた賜物と身につけた知識、技能を自分のためだけでなく、他者のためにも用いる人を育てる

教育研究質向上
聖学院小学校では子どもたちが主体的、かつ対話的に学習するために全ての教科で協同学習を実践しています。これは本校が重点目標としている「対話力を育てる」ことにも直結する学習形態です。この協同学習をより充実させることを第2期ビジョンとして掲げ、継続的な研修を実施します。

施設設備整備
体育館のエアコン設置が急務だと考えています。特に温暖化が進む中、夏季に児童が安全で快適に運動や遊びを行うためにエアコンが必要です。設置のための調査、見積もり、資金計画を実施し、早期の体育館エアコン設置を目指します。

広報戦略・情報公開
教育活動、学校運営について学校自らが自己評価することに加え、2024年度より保護者への学校評価アンケートを実施し、その結果を公表します。

聖学院小学校 校長
佐藤 慎

聖学院幼稚園

日々の感謝と奉仕からうまれる豊かな心の成長を育む

教育研究質向上
「よく遊ぶ」「よく祈る」保育をあらためて家庭との信頼関係のもとに進めていきます。子どもたちにとって幼稚園はこれから始まる学校生活の大切な入り口にあたります。そのよきスタートとなるように、「よく遊ぶ」個人の意志を尊重し、周囲との関わりを広げていけるように、「よく祈る」自分のことや身近な友だちや家族、そして遠く誰かのことを思い祈る心を育むことを、これからも大切にします。

人材・運営体制
心豊かな保育の基盤は教職員の心のゆとりから生まれます。日々のルーティーンや事務的な作業についてあらためて見直しを行い、目の前の子どもたちに向き合うことに集中できる環境づくりを進めます。

広報戦略・情報公開
聖学院幼稚園を広く知っていただくために外への発信を積極的に進めていきます。これまでの説明会や公開保育、体験入園に加え、幼児教室との関係づくりや各種メディアを通しての幅広い広報を進めていきます。

聖学院幼稚園 園長
田村 一秋

女子聖学院中学校・高等学校

自らの賜物を用いて他者と共に世界のために貢献できる女性を育成する

（自立できる強さ、共生する喜び、新しい世界を創造する意欲、豊かな感性と実行力・実力の涵養）

女子聖学院では、優しい自立した実力のある女性を育てたいと考えています。そのために、キリスト教学校の原点である礼拝を全ての教育活動を集約するものと位置づけた上で、教科教育、学校行事、生徒活動などを進めています。礼拝で目指すことは、生徒が厳かなるもの、絶対的なるものと対峙し、自己の存在の意義を知ること、そして人格の形成を果たすことです。さらに、神の「優しさ」に触れ、自らの「優しさ」を育むことを期待します。

新型コロナウイルス感染症によって、生徒活動は大きなダメージを受けました。これを何とか回復させ、さらに発展させたいと考えています。生徒活動の活性化は、生徒の総合力の育成と自立に大きく寄与します。生徒自身が情熱をもって何かを達成しようと考え実行した経験は、確かな力となってその人を支えます。私たちは、新しい世界を切り開こうとチャレンジする生徒を応援します。

女子聖学院中学校・
高等学校 校長
安藤 守

聖学院みどり幼稚園

神さまの愛の中で、人と関わりながら、生きる力を育む

聖学院みどり幼稚園は、2028年に創立50周年を迎えます。今期のアクションプラン（2023-2027）は、創立50周年を迎えるための、備えの5年間です。私たちは、「神さまの愛の中で、人と関わりながら、生きる力を育む」という保育目標のもと、この5年間を通して、3つのビジョンを実現していきます。
1つ目は、保育のさらなる充実です。聖学院大学との連携のもと、キリスト教保育及び、発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育のさらなる充実を実現していきます。
2つ目は、園舎の改築と園庭の整備です。モデルとなる園舎・園庭の視察や学びをしつつ、日本一の園舎・園庭の実現を夢見て取り組みます。
3つ目は、事業所内保育所の開設の検討を始めます。さいたま上尾キャンパスの教職員の方々が安心して働くことができる環境を整えたいと思います。
聖学院みどり幼稚園に集う、子どもたち一人ひとり、ご家庭の一人ひとり、教職員一人ひとりが、神さまの愛の中で、喜び、祈り、感謝の心を持って成長していける環境を創造していきます。

聖学院みどり
幼稚園 園長
赤田 直樹

Pick Up Value

学びの価値を高める聖学院の取り組み

聖学院教育の根本目的である、他者に貢献する人材の育成を達成するために、経営と教育の両面から様々なプログラムを推進。
キリスト教教育や地域との連携による社会貢献など、学びの価値をいっそう高める取り組みの一部をご紹介します。

5つのチャペル（講堂）と9名のチャプレン

キリスト教に基づいた教育と礼拝

学校法人聖学院では幼稚園から大学・大学院までそれぞれのキャンパスで礼拝を大切にしています。礼拝の中で、集う一人ひとりに語られる聖書のメッセージは、2,000年間変わらずに語られてきた言葉です。自らがどう生きるかを問う聖学院教育の根幹が礼拝によって養われます。

創立120周年から未来へ

聖学院教育のアップデート

2020年から加速したオンラインでの教育も含め、変化の激しい社会に対応できる人材の育成が求められています。学修者が自ら学びたいと思える教育デザインが必須であり、ICT環境の整備や PBLといった手法を用いた学修者本位の教育に向けて様々な教育のアップデートを進めています。駒込キャンパスでは教育開発デザインセンターが、大学（さいたま上尾キャンパス）では教育開発センターが始動しています。

学生の可能性を見逃さない

少人数制授業

自分自身が大切にされているからこそ、周りの人を大切に思う心が育つ。このキリスト教の教えに基づいて、一人ひとりを大切にし、可能性を伸ばす少人数制教育が本学院の特徴です。大学では多くのクラスが50人以下で、積極的な発言や受け答えが求められる授業になると10人以下です。

教育の充実と連携を図る

教職員研修会や勉強会

駒込キャンパスでは、各校ごとに年間を通じて教員研修会を実施、外部主催の研修や研究授業等にも積極的に参加し、教育力向上を図っています。また、教育デザイン開発センターではSDGs・英語・ICTの教育テーマに分かれ、16回の会議や勉強会、ワーキンググループが開催され、教育の充実と連携を図るための研究が深められています。大学キャンパスにおいてもFD・SD※委員会が組織され、教育力向上のため授業勉強会、学生参画FD、全学FD・SD研修会、ワークショップなど計8回の会合が開かれました（2022年度実績）。

※FD：ファカルティ・ディベロップメント（教員研修）、
SD：スタッフ・ディベロップメント（職員研修）

蔵書数計40万冊以上 教育基盤を支える4つの図書館

蔵書は聖学院大学305,597冊、聖学院中高40,337冊、女子聖学院中高52,954冊、聖学院小学校19,971冊（2022年度実績）。知的財産の観点からもアーカイブの重要性は高まっていますが、120年の歴史という文化的資産を継承するため、専門家のアドバイスを踏まえ、デジタルアーカイブ化も進めています。小学校の図書館の一角には、秘密基地のような小部屋など、子どもたちの想像力を育む工夫も施されています。

68,000名を超える卒業生

同窓会ネットワークの強化

120年の歴史を持つミッション・スクールとして、これまで68,000名を超える卒業生を社会に送り出しています。母校の発展に貢献したいと願う卒業生や保護者からASF（All SEIGAKUIN FELLOWSHIP、以下ASF）募金が集まり、聖学院ビジョンの推進や教育の質向上のための活動を支えています。また、毎年6月に発行される ASFニュースやウェブサイト、SNSを通して卒業生の活躍を発信し、ネットワークの強化を図っています。

国際社会の課題に目を向ける

海外研修プログラム

小学校から中学・高校までの各校で、10を超える短期・長期の海外研修プログラムを実施。大学では学術提携を含め15大学・機関と連携して海外研修・留学をサポートしています。アメリカ、イギリス、オーストラリア、タイ、カンボジア、韓国、台湾など世界各地で様々な文化や人とふれあい、語学力向上だけでなく、国際社会の課題解決のために自分に何ができるのかを考える契機としています。

専門家・学生・地域が集う

聖学院大学アセンブリアワー

アセンブリアワーでは、聖学院大学の理念に基づいた多様な学びの場が学生、地域に向けて開かれています。本学の専任教員による学術講演会をはじめ、社会の最先端で活躍する専門分野の方々を招いた講演会や学生による発表、映画上映、弁論大会、スピーチコンテストなどが開かれ、学科や年代を超えた文化発信拠点としての役割を担っています。

学問的分野の支援を通じて地域に貢献

13自治体を対象にした人材育成

地域貢献への取り組みは、本学院の教育方針の特徴でもあります。その一例として聖学院大学の「基礎自治体マネジメント研究会」では、包括連携協定を締結した13自治体の職員が1年を通してマネジメントの基礎知識を学び、2023年3月に各自治体が抱える課題について研究成果を発表しました。